

蚊の予防と対処法

蚊の予防と対処法を説明します。5月のほけんだより【虫さされ予防対応】（すぐーる配信と、いずみこども園ホームページ）の続きですので、参照してください。

蚊に刺されたらどうなるの？

子どもは新陳代謝が活発なので、虫に刺されやすく、肌が弱いと症状が強く出てしまうことがあります。

蚊に刺された時の皮膚反応は、刺されてすぐに赤くなってかゆみが出る場合と、刺されて1～2日で赤くなってかゆみが出る場合があります。新生児期はアレルギーが成立していないため無反応ですが、幼児期までは、個人差はありますが、両者の反応が出るといわれています。



蚊に刺された時の対処法

蚊に刺されてしまった場合は、刺されたところを、水で洗い流して清潔にします。かゆみを軽減させるためには、水でぬらしたタオルや保冷剤などを使用して、冷やすことがおすすめです。必要に応じて、かゆみ止めを塗ります。

刺されたところを、かきこわして、細菌に感染してしまうと、「とびひ」になることがあります。



とびひ(でんせんせいのうかしん 伝染性膿痂疹)

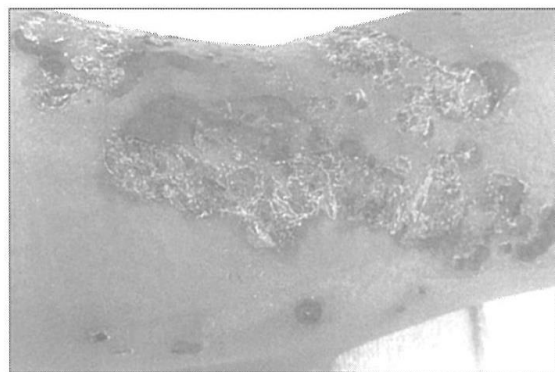
とびひは、細菌による皮膚の感染症で、水ぶくれや、かさぶたができます。

接触によってうつり、火事により飛び火のように広がることから、このように呼ばれます。

あせもや、虫刺されなどを引っかいたり、転んだ傷に二次感染を起こしたりして発症します。

また、鼻を触る癖があると、鼻の周囲からとびひが、始まることもあります。

とびひの写真



プールに入れない理由があります

プールや、友達と一緒にの水遊びなどは、とびひの症状が悪化したり、友達にうつしたりする可能性があります。そのため、完全に治るまでは入れません。

ご配慮、ご協力をお願いします。



予防について

「とびひ」を予防するためには、入浴して皮膚を清潔にし、手洗いをしっかりとさせることが大切です。

皮膚をかきむしって傷つけないようにするために、爪を短く整えましょう。また、とびひの原因になる細菌が、鼻の中にたくさんいるので鼻をいじらないように伝えます。



登園は状況に応じて

◎基本的には、医師の診断や治療を受けて、とびひの部分をガーゼや包帯できちんと、覆っていれば、登園することができます。

◎とびひが多発して広範囲の場合は、医師の診断と治療を受けて、登園可能かどうかを確認してください。全身状態が良い状態での登園をお願いしています。